



彼女は強く、深く、楔を打ち込んだ。

その地を抉り殺す事になるとは知らずに。

フン...

おはよう

フン...

AM?????



...昨夜は
激しかったけど

よく
眠れたかしら?

引き寄せられるように
はだけた寝衣から
こぼれ落ちる
豊かな胸へと手を伸ばす

あ〜ん

おんっ

柔らかさを愛でると
この綺麗な肌と
激しく身体を重ねた
昨晩の記憶が
鮮明に呼び戻される

…触るだけで
いいのかしら？

殿方の朝は
痛いほど
辛いのでしょうか？

好きに使って
構わないわよ…？



「愛人」のお誘いを
無碍にはせず

彼女に申し掛かり
愚息を擦り付けるよう
柔らかい胸を蹂躞し

彼女は
淡い笑みを浮かべながら
無粋に飛び散る欲望を
受け止めてくれた

寝起きに
亡霊の姫を汚す
背徳感を味わいながら

また
いつも通りの
一日が始まる――

では妖夢殿
今日も
よろしく頼む

AM 08:11

はい
お気をつけて

この度は
冥界周りの
結界調査とのことで

八雲一家一同
紫様のご友人である
西行寺幽々子殿の元にて
お世話になっている

――つと
その前に……



大規模で
長期に亘る
遠征作業のため

紫様のお屋敷に
人間一人だけを
残す状況を不安視され



私自身も白玉楼に
しばらく身を預ける
運びとなった



すいたくなったら
いつでもお願い
するんだぞ...?



庭師の仕事は
いいのかと聞くと

御客人に
ご満足して
頂くのも……

私のお仕事
ですので……

と、頬を赤らめ
期待と不安の眼差しを
向けて来る



クッ
あの……

藍様達を見送ると
妖夢に小さく
袖を引かれる

何か御用は
ありませんか……？

私にできることなら
何でも
お申し付けください



小振りながらも
形の良い尻を撫で回し
自室へと連れて行く



もう何度目かになる
誤魔化しのやり取りを
今日も交わしながら

さわ……
8

5:40...♡

5:40...♡

AM 09:02

畳の上に寝転がり
愚息を露出させると
妖夢はおおおと
口でご奉仕を始める

早ユアッ

早ユアッ

まるで割れ物でも
扱つかのよ様に添えられた
震える両手が
健気で可愛らしい

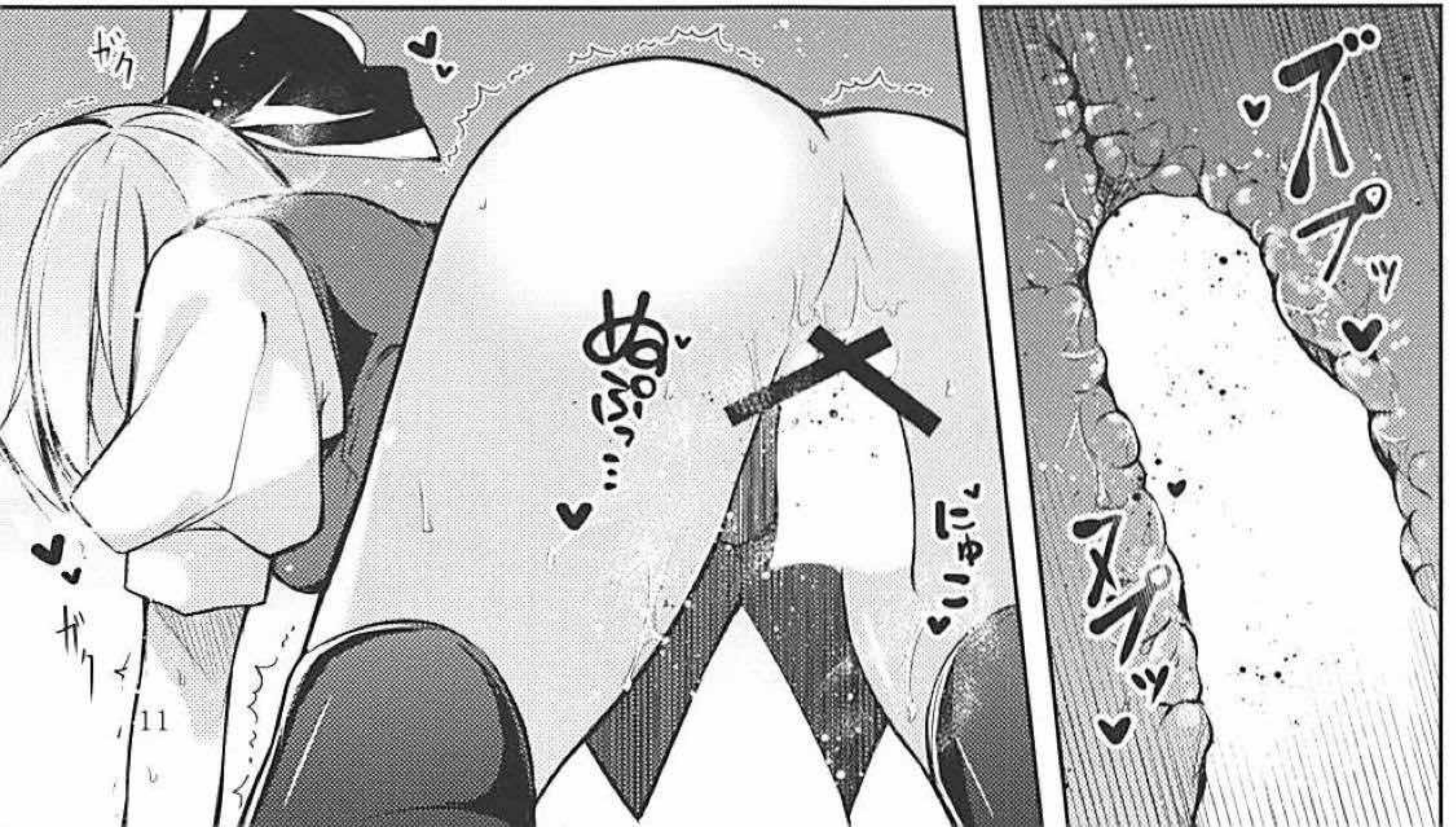
その事を
指摘してやると
嬉しそうな表情になり

舌の動きが
愚息を
味わうかのような
丁寧なものになる



そのまま妖夢に
騎乗位でご奉仕を要求し
無手のまま快楽を堪能する

まだ成熟しきつているとは
言えない妖夢の膣内は
ビクビクと痙攣しながら
愚息を迎え入れる





気持ちよく
なつてもらおうと
懸命に腰を動かす
妖夢へお返しに

乱暴に腰を突き上げ
降りてきた子宮を
押し返すように
膣内へ欲望を叩きつける





悦びの強襲で
妖夢が動けないのを
いい事に

彼女の女性として
丸みを帯び始めてきた
柔らかい部分を
撫で回し堪能することにした

んっ

んっ

AM 10:04



妖夢に部屋の
後始末を任せ

程よく日が差す
蒼昊の空の元

朝の陽気の残滓を
感じながら

縁側にて
幽々子の授乳を
受けていた

『毎日定期的におっぱいあげてねー
じゃないとあの人
死んじゃうから』
と紫様から言われたのこと

一体私はなんだから
思われているのか

ただ青空の下
日も高いうちから
人目を気にせず

ちがほ

好き放題に
巨乳を味わえるのは
とても

スッ...

ココも随分
立派にしちゃって

そんなに
幽々子のおっぱい
気に入っちゃった？

あらあら

スッ...

ノドノドノド

あら紫
おかえりなさい

ただいま

といても
また戻らな
きや
だけど……

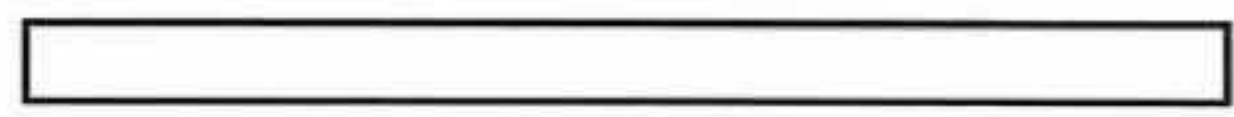
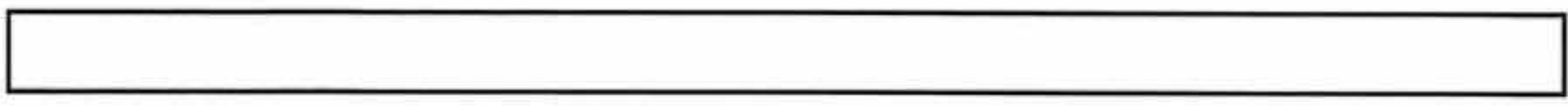
……そう
じゃあ外した
ほうが
いいかしら？



……
大丈夫よ

三人で
楽しみま
しょう？

オキ
ズカカ♡♡





AM 10:59

S...r...

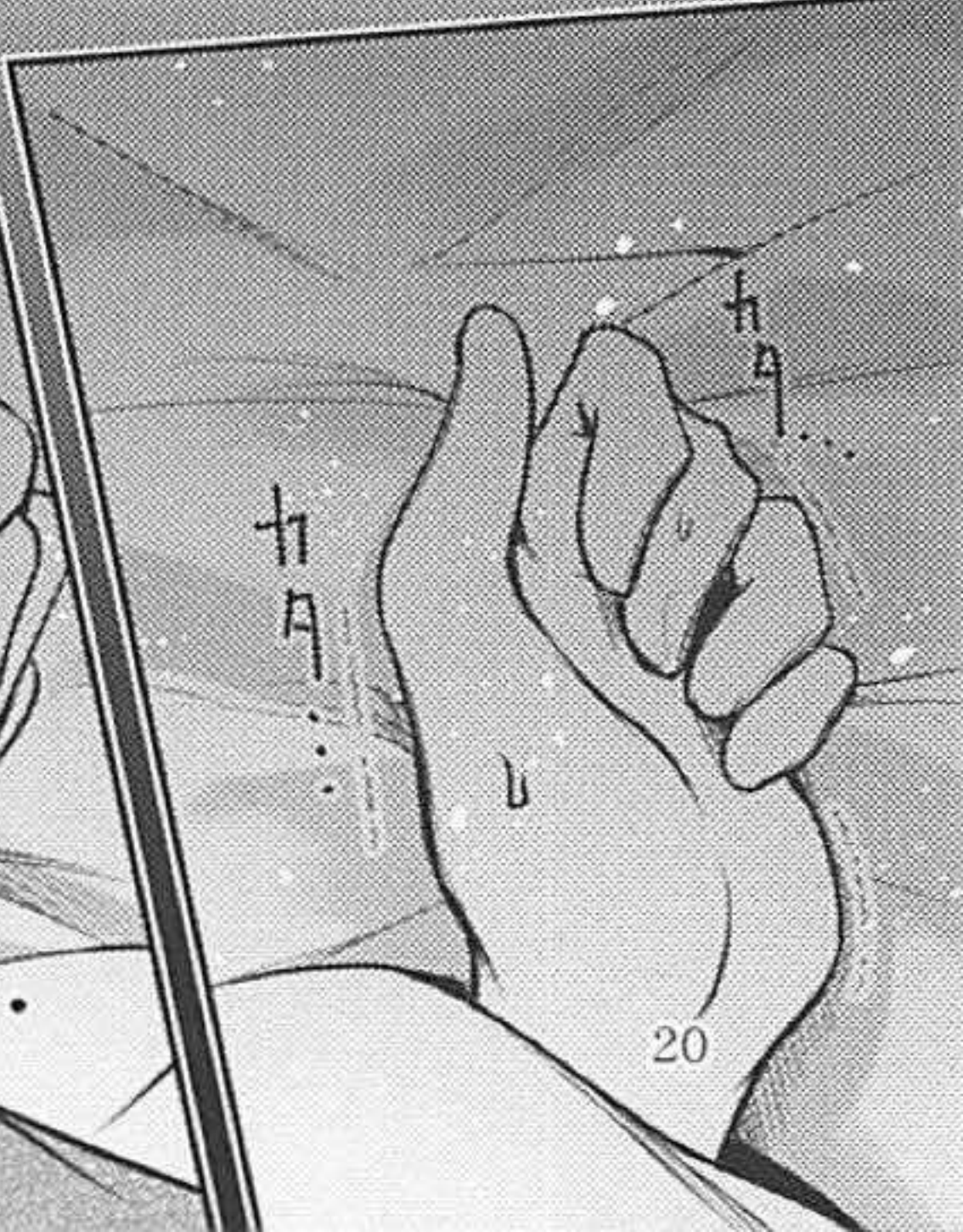


...r...

...r...







——彼女の生い立ちは
紫から聞いていた

死を誘う少女は
誰にも好かれることもなく
誰にも愛されることもなく


ただ一人
悲しみに包まれ
その生を終えたという

望まぬ因果に巻き込まれ
数多の魂を冥府に墮とし
自らの存在を嘆き疎んじ

賤陋な悪意に晒され
失意に当てられ自命を絶ち
人の輪廻からも外されて


そんな愛を知らぬ
乙女を見かねた
たった一人の友人が

救いの手を
差し伸べる



その友人が
愛に狂って
いなければ

そんな美談にも
なつたの
かもしれ
ない



八雲紫は恋人への
奉仕の品として

千年来の友人を、
その従者を、
私に捧げたのだ

幽々子はそれでも
知己の提案を受け入れ

私の愛人となることを、
自ら寵愛の道具として
使用されることを決めた

如何にも其の通り

彼女は私の心を
自らの手元へと
繋ぎ止める為だけに

肉欲の鎖を躊躇なく
強固なものへと
変えていく

無論
今更外の世界に帰る
などとは
言わないのだが

彼女にとって
その事だけは
永遠に消えること無い
不安の楔なのだろう



……ただただ
快楽を
享受するだけの
畜生に



堕ちきれなかった
私はせめて
お互い幸福になるよう
尽力はしている

PM 00:00

行為を終え
美人二人に
先程までの後処理を
好き放題に任せる

まだ興奮
冷めきらぬようで
胸や口を使い
愚息を取り合う光景は
男冥利に尽きる壮観であった

征服欲と疲労で
ほんやりとした
頭の中に

昼の刻を告げる
微かな鐘の音が
淫猥な水音と共に
耳に届く

続

ハクマヨスケジュールAM

2018年 8月10日 初版発行
コミックマーケット94

発行・制作

みどりねこ

midori0014@gmail.com

みどり

<http://www.pixiv.net/member.php?id=76139>

<https://twitter.com/midori14>

印刷

栄光印刷

謝辞

ZUN(上海アリス幻楽団)

みどりねし